

にコンパクトな予算と言える。

人口減少社会の中で国分寺市はまだ人口微増ながらも、長期的には市税増収は想定しづらく、こうしたコンパクトな規模で予算措置を講じることが問われた予算案となった。

保留床処分金の内、43億8千万円が財政調整基金（市の貯金に相当）に積まれたが、今後この臨時収入をすぐに使ってしまうのではなく、本年度から始まる8か年長期計画内はもとより、9年後以降も市政運営は続くわけであり、長期的視点で捉えて活用していくことを求める。

一方、同じ保留床処分金の内約21億円が庁舎建設基金に積み増され、庁舎建設費が65～70億円と言われる中で、庁舎基金残高は40億円を超えた。今後建設計画が本格化していくと、あれもこれも、とお金をかける意見が様々出てくるのが予想されるが、40億円という積立額に甘えず、本当に必要な庁舎機能とそのための必要な金額をしっかりと判断して頂くことを求める。

扶助費については、保育園整備は市の計画上では一旦終了した形だが、今後も整備は継続的に必要になると考えられ、扶助費も増大が想定される。財政に余裕ができたとする意見もあるが一概にはそうは言えず、引き続き慎重な財政運営を求める。

職員の人材育成の観点から、29年度より統括課長ポストが新設されるが、これは将来の部長候補でもあり、しっかりと有効に機能させることを求める。

高齢者の運転免許証自主返納者に対するぶんバス無料パスの配布事業は、29年度の日玉施策の一つであるが、昨年末に万葉・けやきルートの開通により、ぶんバスルートがほぼ市内全域で整備された現在、国分寺市はそもそも道路事情が悪いこともあり、自主返納によりぶんバスを生活の足として活用して頂くことで、交通安全対策の成果に期待する。一方で、ぶんバスの特別会計としての独立性が曖昧になっている部分もあり、しっかりとした庁内検討を求める。

まちの魅力発信について、税外収入策の一環で、クラウドファンディングとして市内案内板に寄付者の名前を刻むという取り組みを行うが、現在、ふるさと納税制度により1億円以上流出している財源を更なる施策展開で食い止め、プラスに転じていくための取り組みを期待する。

現在実施中の高齢者アンケートについては、これまではない、回収に当たっての督促やそのための戸別訪問まで行うという手法はやりすぎである。何のためのアンケートで、どういう手法がよいのか、今回のことを反省材料にして今後の市実施アンケートに活かして頂きたい。

債務負担行為について、アウトソーシングとあいまって近年増加しているが、これは後年度の支出を縛るという意味では地方債と同じ性格を有しており、財政の硬直化を生んでしまう。本当に必要なものは何なのか、慎重に判断すべきだ。また、アウトソーシングの実施についても慎重に判断して頂きたい。

新たな長期ビジョンの下での最初の年度となる29年度予算の真価が問われるのは実質的には

年度開始の4月以降である。実際のお金の使われ方については今後チェックを継続していくが、国分寺市ビジョンが市や市民の方々に対して良い効果・結果を出すことを期待して29年度一般会計当初予算に賛成する。

賛成討論

有事に備え市民視点に立つ堅実な財政運営を

公明党

高橋 りょう子



初めに長期にわたる予算編成作業、資料作成に当たられた職員の皆様に感謝申し上げます。平成29年度は国分寺駅北口再開発ビルが完成する重要な年度。一般会計の予算規模に於いては再開発ビルの保留床処分に伴う歳入135億円を計上し、昨年度に比べ21%増の過去最大規模となる見通しが示された。特にこの処分金を活用し財政調整基金に42億円、公共施設整備基金に8億円、庁舎建設資金積立金に21億円と大幅な基金積み増しは財政基盤確立の判断と受け止め、高く評価し引き続き着実な推進を求める。

市債、債務負担など将来への負担について：公益施設事業債等により前年度より増加しているが将来にわたって必要な施設や基盤整備の為やむを得ないと考える。今後公共施設等マネジメントを進めるに当たり財源調達の際においても借金を抑制しバランスのとれた経営が重要。将来負担の抑制を一層図られる努力を求める。

課税徴収について：収納率や調定額を増やす事も大事だが人件費や郵送費など実費負担がいくらかも含め今一度精査し、経費の掛からない課税徴収方法も検討すべきと考え、検討を求める。

マイナンバーについて：行政書類取得の手間が省け1か所で行行政サービスの手続きが完結し、災害時被災者緊急支援や情報収集といった国民の命と財産を守る大変有効な制度である。市民への正しい活用方法や理解の周知と今後は薬の処方や医療情報提供など利用事務の推進に期待する。

待機児解消への取り組み：民設民営保育所誘致や待機児解消への積極的な取り組みを高く評価する。今後相談窓口の環境整備や保育人材の確保など万全な体制での事業推進に期待する。

出産・子育て応援ゆりかご事業：妊娠期から面接でつながることが大事な事業。育児パッケージは母親本人のニーズに対応できる配慮を。7月事業開始に向け漏れの無いよう丁寧に対応を。

乳幼児予防接種アプリの導入について：限られた期間内に接種を勧める保護者のスケジュール管理に大変有効。受診率の低い若者への健診勧奨・情報発信も含め更なる活用の展開に期待する。

小中学生対象の生活習慣病予防健診について：現在結果通知は郵送だが、29年度より医師との面接指導という体制となる。成長期の児童生徒自らが生活習慣の早期認識・改善につながり成人病等リスクが回避され大いに評価する。

婦人科検診費：高密度乳房の患者はマンモグラフィでは乳がんが見えにくく異常なしとしか

通知されないのが現状。乳がん見逃し対策として正確な通知表現への前向きな検討を求める。

認知症対策について：認知症対策初期チーム設置、地域支援員を地域包括支援センター6か所全ての配置を評価。見守り窓口3か所拡充の効果に期待する。高齢者が住み慣れた地域で暮らす為の仕組み作りを開始するよう求める。

ヘルプマークの配布：外見から判断されにくい内部障がいも含め障がい者への理解促進、周知に有効と評価する。又命を守るホームドア、内方線付き点状ブロック設置など鉄道事業者、関係機関への働きかけを引き続き強く求める。

自転車の安全利用について：自転車も確認できるミラーの設置、自転車専用レーン、ナビマーク、サイクルラックの機能性向上等々自転車の環境整備により安全な町づくりを求める。

ぶんバスについて：高齢ドライバーのブレーキ踏み間違いによる事故の抑制に資する免許証返納者へのぶんバス無料パス支給は大変有効な取り組みと評価。今後既存ルートの鉄道駅へのアクセス等工夫し乗降客の増加、利便性確保の検討を。

最後に予算規模が大きくなる分細やかな収支が見落とされがち。職員の皆様には基本に則り緊張感を持った事務執行とチームワークで市民の期待に応えられる様望み、賛成の討論とする。

賛成討論

市民参加でまちづくりをすすめよう！

国分寺・生活者ネットワーク

岩永 康代



平成29年度一般会計予算は、国分寺駅北口再開発ビル保留床処分金に伴う歳入等により前年度に対して約87億円、割合では21.4%増の495億8,800万円となり、これまでより大きく増え、過去最大の予算規模となった。また、保留床処分金繰入金約75億円あったこともあり、基金については財政調整基金約42億円、公共施設整備基金約8億円、庁舎建設基金約21億円、その他含めて全体で約74億円積み増し、その結果と

次ページに続く➤

閉会中の委員会等

委員会はどこでも傍聴できます

第1回定例会終了後、平成29年第2回定例会までの間に開催する委員会等は下記のとおりです。

4月6日(木)	議会運営委員会
4月10日(月)	代表者会議
4月13日(木)	代表者会議
4月19日(水)	議会運営委員会/代表者会議
4月21日(金)	代表者会議
5月8日(月)	代表者会議/議会運営委員会

市役所第1庁舎3階委員会室で午前9時30分から開催します。

*詳しくは、市議会ホームページをご参照ください。

意見書を可決

下記の意見書を可決し、関係機関に送付しました。ここでは、意見書の要旨を掲載しており、全文についてはホームページに掲載しています。

意見書第1号 国3・2・8号線と国3・4・6号線の交差点の安全対策を求める意見書

東京都が整備を進めている国分寺都市計画道路3・2・8号府中所沢線(国3・2・8号線)は、多喜窪通りから国分寺都市計画道路3・4・6号小金井国分寺線(国3・4・6号線)の区間で、本年3月16日に交通開放が実施された。

この交通開放により新設された国3・2・8号線と国3・4・6号線の交差点は、通勤や通学、買い物などで多くの市民が利用している。また、この交差点の付近には国分寺市立第五小

学校があり、登下校時には学童が通行するため、特に安全対策の配慮が必要な交差点である。

交差点の安全対策としては、歩行者と車両が交錯することがなくなる「歩車分離式信号」の効果が広く認められている。

よって、国分寺市議会は、最善の信号機を交差点に設置し、歩行者が安全・安心に交差点を渡れる安全対策を講じることを求める。